

新年度に向けて



令和に入ってから一年がたとうとしていますが、新型コロナウイルスの感染拡大により、皆様不安な毎日をご過ごされてきていることと存じます。原稿を執筆して

いる時点では未だ出口は見えてきておりませんが、この学報が皆様のお手元に届くころには、前向きな話題が出てきていることを願っております。

さて、私達の身の回りは、昨日、一昨日、あるいは、1週間前と考えると、さして変化のない生活を送っているようですが、立ち止まって振り返って見ると昨今の時の流れは実に早く、大きな変化がもたらされています。例えば、携帯電話ですら一昔前とは様変わりです。それには通信機能のみならず、パソコン機能もカメラ機能も付いており、1台3役どころかそれ以上の機能を有するに至っています。しかもその普及は水平的にも垂直的にも極めて広範囲に及ぶに至っています。この事象は、それと同時に社会そのものの変貌ぶりを物語るものであり、知らないうちに社会は様相を変えてきています。

そうした大きな変化の流れの中で、大学もまた大きな変革が求められています。振り返ってみれば講

岡山商科大学学長 井尻 昭夫

義形態もチョークと黒板という時代は過ぎ、映像を駆使した授業や、フィールドスタディという新しい教育方式が採り入れられてきており、本学もまたその環境整備をより一段と進めてまいりました。

他方、学生たちの中には、黒板の板書を携帯電話で撮ってノート代わりに利用している姿も見られ、現代的な学生気質を垣間見る思いです。そういった変化は多様な世界を産み出しており、しかもその変わりようはとて速くなっています。

このような変化に富んだ社会の中で、本学は学生諸君の活躍で大学院進学率が6年連続日本一となったのははじめ、資格取得においては、FP、宅建、加えて本学で初めてとなる社労士に合格した学生を輩出しました。他方、サッカー部の岡山県学生サッカーリーグ一部昇格をはじめ、弓道、卓球、柔道、ボーリング部等の運動部でも顕著な成績をあげており、文武両道の教育方針に沿って輝かしい成績を挙げています。

社会には不確定な要素が増してきていますが、「環境が人を育む」をモットーに学生の勉学環境の整備と質の確保に努めていきたいと考えています。

本年は試験の年になるかもしれませんが、そういう時にこそ、我々は人としての本質が試されているように感じます。

末筆ながら、本年の皆様のご健勝を切に祈念しております。

CONTENTS

<商大トピック>

- スペイン、マレーシア柔道チーム受け入れ ●農泊モニターツアー(奥出雲)について
- 片岡総社市長による講演会 ●北房農泊推進協議会、(一社)北房観光協会と協定締結

<情報アラカルト>

- 2019年度部活動戦績 ●パラ・パワーリフティング台湾女子代表、日本代表 強化合宿
- 第57回全日本大学ボウリング選手権大会優勝 ●男子バスケットボール部1部リーグ昇格

商大トピック

Topic

1

備中県民局 人づくり・地域づくり 応援隊事業について

2019.10.5~2020.1.18

備中県民局から人づくり・地域づくり応援隊事業について学生募集の依頼があり、高梁市備中町内で行われる事業に本学学生3名が参加しました。このプロジェクトには岡山大学、吉備国際大学など他大学の学生も参加しており、総勢12名で地区の状況を体験しながら学んでいくものです。



10月5日(土)、事前説明会が岡山市内で開催されたのを皮切りに、現地研修①では備中神楽や県無形民俗文化財の平川鋤崎八幡神社の秋祭り(渡り拍子)などを体験し、地区の伝統文化や歴史に触れました。続く、現地研修②では3班に分かれ、地域の方から各地区における状況や課題をヒアリングし、高梁市備中町の産業や暮らし、地域資源の活用などを学びました。そして、3日間の研修を通じて学んだ内容をもとに地元の方と話し合い、「自然動態を増やす」、「社会動態を増やす」、「関係人口を増やす」の3つの観点から発表内容をまとめ、最後の発表会では、高梁市副市長や備中県民局長もお越しになり、それぞれの立場から講評をいただきました。

地域の方からは、「長年地域おこしをやっているが、この事業のように若い人が定期的にまちにやってくるという状況も大事である。社会人になって是非地域に遊びに来てください」との声をいただきました。大学としても、こちらの事業がきっかけとなり、同地区に繋がりができれば幸いです。(産学官連携センター)

Topic

2

スペイン柔道ナショナルチーム、 マレーシア柔道チーム受入れ

2019.5.24~

2019年5月24日から6月7日にかけて、マレーシア・ペナン州スポーツ振興センターから派遣された男子3名、女子3名、コーチ1名が本学柔道部の練習に参加しました。その際、本学とマレーシア・ペナン州スポーツ振興センターは、柔道の交流協定を締結しました。また、10月9日から11月30日にかけて、ジュニア代表選手1名が朝練や稽古に参加しました。約2ヶ月間滞在し、日本の文化を学びながら、柔道の技術を磨きました。大きな怪我もなく、学生達とも交流を深め、無事に帰国いたしました。

11月7日から20日にかけては、スペイン柔道ナショナルチームの男子選手6名、コーチ1名が練習に参加しました。岡山県・市とスペイン柔道連盟は、2020年東京オリンピックの事前キャンプに向けた協定を締結しています。本学柔道部は、スペイン男子選手の受入先となっています。今回の来訪は、オリンピック出場を目指すための強化合宿だけでなく、2名の

選手が11月21日に開催された国際大会であるグランドスラム大阪に参加し、見事5位入賞を果たしました。大会前の緊迫した雰囲気や白熱した稽古では、組み合った学生達も貴重な経験ができ、お互いに成長ができたことと思います。(柔道部 監督 菊川 顕)

Topic

3

真庭市社地区での竹灯ろうづくり

2019.11.16

真庭市の東部、湯原温泉にほど近い山間にある社(やしろ)地区は、御堂や石造物が数多く点在し、式内社(延喜式に記載された格式の高い神社)が八つもあり、古い歴史を感じることができる地域です。その社地区では、大晦日の夜に、地元の佐波良(さわら)・刑部(かたべ)神社をお参りする帰省者や観光客を、竹灯ろうの幻想的な灯りでもてなすイベント「やしろう竹あかり」を2017年から開催しています。社地域振興協議会、真庭市役所湯原振興局からの依頼により、そのイベントで使用する竹灯ろうを制作するため、2019年11月16日(土)に本学学生が社地区を訪れました。一昨年、昨年に続き3回目のワークショップ参加となります。



社地区には、立派な竹林があり、そこから直径15cmもあるという立派な竹を地域の方が切り出します。切り出した竹を1.5~2mほどの長さに切り、竹灯ろうのデザインが施されたシールを張り付けます。シールに記載された丸印の大きさに合わせて、電動ドリルを使って穴を空け、空け終わるとシールを剥がして3本の竹を自立するように組み上げて完成させます。

本学から参加した6名の学生は、地域の方と共に手分けして次々にドリルで穴をあけていき、竹灯ろうを完成させていきました。夕方には全ての竹灯ろうが完成し、LEDの照明を入れてテスト点灯を行うと、幻想的な景色が浮かび上がりました。

参加した学生のアンケートでは、「地域の人とはとても親切で、温かみがあった。地域ぐるみで何かやるのは、仲も良くなり、つながりが増えるのでいいことだと思った。」「地域の方々のコミュニケーションは大切だと感じたいし、みんな協力して取り組むことは達成感があった。嬉しかった。」などの感想が寄せられました。(産学官連携センター)

Topic

4

農泊モニターツアー(奥出雲)について

2019.11.23-24

2019年11月23~24日、中四国農政局との連携事業である留学生による農泊モニターツアーが島根県奥出雲町で実施されました。この事業は今年度で3回目となり、今回は中国人7名、韓国人3名の留学生が参加しました。奥出雲町は、古くからたたら製鉄が盛んだった歴史や文化が香る中国山地の山間のまちです。現在は、砂鉄を採取したり、燃料として木材を切り出した跡を開墾し作られた、「仁多米」というブランド米の産地としても有名です。モニターツアー1日目は「奥出雲たたらと刀剣館」見学と日本刀鍛錬体験、鉄頭取糸原家の邸宅跡の庭鑑賞と抹茶体験、高いつり橋もかかる「鬼の舌震(したぶるい)」という渓谷を訪問しました。夕食は地元のお母さんたちと一緒に郷土料理を作りました。宿泊は江戸時代から残るかやぶき家屋に泊まり(都合により男子のみ)、町内の温泉にも入浴しました。2日目は、尾原ダム散策、牧場でのバター作り、舞茸工場見学の後、トロッコ列車「奥

出雲おろち号」にも乗車しました。留学生たちからは、多言語表示の説明が欲しい、交通が不便ではといった問題点も指摘されましたが、お米がおいしい、棚田がきれい等、奥出雲観光に対してのおおむね好評でした。(経営学部 教授 三好 宏)

Topic

5

IR講演会の開催について

2019.11.28

去る2019年11月28日(木)に岡山商科大学 社会総合研究所 産官学連携センター主催の「IR講演会」が開催されました。冒頭には、井尻昭夫学長のご挨拶、閉会には大崎紘一副学長のご挨拶がありました。このIR講演会は、2014年から毎年秋の大学祭で「学生と投資家のための会社説明会」と題したイベントで、通算6回目となりました。大学祭は、ライブコンサートや模擬店で忙しいので、2017年からは11月下旬に開催しています。今回、ご参加いただいた2社の共通点は、①「大学発ベンチャー企業」である、②両社とも「人と地球を健康にする企業」であることが挙げられます。学部のゼミのご参加もあり、1日目の東京の「ユグレナ」(東証1部、東京都港区)には100名近い参加者、2日目の広島市の「フェニックスバイオ」(東証マザーズ、広島県東広島市)には200名近い参加者が集まりました。文字通り、学生は勿論、学外から投資家、証券銀行等から数十名の参加もあり、盛況な「IR講演会」となりました。

午後の3時限、4時限の2部構成のIR講演会でしたが、各コマの前に、主催者側から客員教授の近藤一仁が「IR就活の勧め」と題した講義を行いました。

東京からご参加となったユグレナ経営戦略部の棕木 直人IRチームリーダーから、「世界で初めて石垣島(沖縄県石垣市)で微細藻類ユグレナ(和名:ミドリムシ)の食用屋外大量培養技術の確立以降の業績動向や今後の展望」について弁舌さわやかな講演がありました。広島からご参加のフェニックスバイオの島田 卓社長からは、「動物(PBXマウス)を駆使した新薬開発支援のビジネスの内容や今後の展望」について分かりやすい講演がありました。

最後になりますが、全国の大学でも珍しい「学生と投資家のための会社説明会」を大事な「就活」にも活用し、就職してから3年で会社を辞めるような事がないように、公式Webサイト(HP)の分析を通じた「IR就活」を是非心掛けて欲しいものです。

(岡山商科大学 社会総合研究所 客員教授 IR戦略研究所 代表 近藤一仁)

Topic

6

おかやま大学生人権啓発パートナーシップ事業: 第3回つぼみ講演会

「少年犯罪で息子を奪われた母の想い
~少年犯罪被害について考える~」

2019.12.4

犯罪被害者支援同好会「つぼみ」は、2019年12月4日、少年犯罪被害当事者の会代表の武るり子氏をお招きして、第3回目となる講演会を開催しました。今回は聴講者が主体的な学びを得る機会といたく、講演の後、武さんと岡山大学法科大学院教授・弁護士の吉沢徹先生にもご参加頂き、パネルディスカッションを行い、さらに聴講者全員でグループワ



クを行いました。

武さんはご息を少年らの一方的な暴力で失った体験をもとに、被害者の会を結成され、少年法の改正にも関わってこられたことや、その活動には地域の人をはじめ多くの人の支えがあったことをお話されました。パネルディスカッションでは、近年被害者支援のための多くの法改正や条例の施行がなされたものの、それが十分に周知されず、きちんと運用されない実態があること等が明らかになりました。学生達は、制度がきちんと活用されるための方策や、被害者に適宜に助言し支える人材の必要性等を痛感したようです。地域の保護司の方々や他大学の学生達も参加して話し合いが行われました。

つぼみは法学部の学生が主体となっていますが、法学部にふさわしい学びの多い講演会になったのではないかと思います。

(法学部 准教授 加藤摩耶)

Topic 7

総社市長片岡聡一氏を招聘し、2019年度岡山商科大学学会学術講演会を実施

2019.12.12

2019年12月12日(木)14時40分から16時10分まで7号館781教室において、岡山商科大学学会学術講演会を開催しました。講師には総社市長の片岡聡一氏を招聘し、「大災害は市役所の実力テスト」という演題で講演をしていただきました。同氏は、2018年7月の西日本豪雨災害を身を以て体験し、その折の地域の惨状とそれに対処しようとした地域行政の責任者としての心構えとその実践を克明に語られました。

災害対策本部を7月6日午前9時45分に設置したものの、高梁川の水位は急激に上昇し、総社市内の昭和地区の浸水や下原地区のアルミ工場の水蒸気爆発などにより多くの家屋が被災しました。「有事の際は法律・条例を破れ」、「決断は10秒以内で、責任は自分がとる」、「公平・平等の原則は誰ひとり助けられない」という3つの掟を自らに課して、同氏は被災地の復旧につとめられました。総社市は「大規模災害被災地支援条例」を制定し、多くの職員を被災地に派遣してきましたが、窮地を救ったのはこの支援の輪であり、これまで支援した被災地から多くの支援がありました。災害という有事は、多くの市民の生命や財産を守りきれるかという市役所の実力テストであり、この実力テストを乗り切ったと考えたと締め括られました。

(岡山商科大学学会)

Topic 8

第1回交流ダンス発表会の開催について

2019.12.15

2019年12月15日(日)、本学剣道場において「第1回交流ダンス発表会」を開催いたしました。

社会総合研究所では、2018年度から当研究所の青山客員教授が中心となって社会人を対象とした商大講座特別編「リフレッシュダンス教室」を開講しています。今回新たに日頃の成果を発表する場として児島マリンスポーツクラブやシェイプアップ庄新町教室の方を招き、総勢65名で執り行いました。

受講生13名で結成された「リフレッシュダンス」は、10種目の内、ヒップホップやチャアダンス、創作ダンスの3種目を行い、チャームな笑顔とパフォーマンスで会場を沸かせていました。その他のダンスチームもそれぞれの演技で観客を魅了し、最後には来場者も含めた全員で総踊りならぬ総ダンスが行われ、笑顔の内に幕を閉じました。

「私たちのホームに来てくださり、ありがとう



ございます」からはじまった受講生チームの挨拶。「岡山商科大学」という場が身近に感じられていること、様々な人のプラットホームになっていることに胸が熱くなりました。人生100年時代と言われる昨今、みんなと一緒に楽しみたい気持ちが健康の延伸や周りを笑顔にする力に繋がっています。

現在、リフレッシュダンス教室では、40代～70代の方が月2回90分程度気持ちの良い汗を流しに来られています。思わず口ずさんでしまう音楽と合わせて、日頃かたまっている体をリフレッシュさせる体操をまじえたダンスを行っており、未経験者の方も安心して取り組める内容です。今の日常の中に、軽い運動と喜ばれ合う仲間をつくりにきませんか? 随時ホームページに開講日時を掲載しておりますので、興味のある方はぜひ剣道場に見学いらしてください。

(社会総合研究所)

Topic 9

北房農泊推進協議会、(一社)北房観光協会との協定締結

2019.12.20

真庭市北房地域では、農林水産省が推進する、農泊(日本ならではの伝統的な生活体験や農山漁村地域の人々との交流を楽しむ農山漁村滞在型旅行)事業を、北房農泊推進協議会を中心に取り組んでいます。本学では、2018年2月に留学生を中心とした農泊モニターツアーに参加し、観光商品についての感想や、今後に向けての提案を行いました。

その後も、農泊事業をきっかけとして、ゲストハウス「北房まちの駅AZAEセンター」の運営協力、季節行事「ホタルのタベ」、「真庭イルミネーションinハート広場」などで協力を行うとともに、春と秋に行われる北房お大師巡りの調査を行ってきました。

今後も、地域にとっては学生が訪れることで交流人口を増やすことにつながり、本学にとっては地域の文化や観光資源を学ぶフィールドスタディの場として、一層の発展が期待されることから、北房農泊推進協議会、(一社)北房観光協会と協定を締結することとなりました。

2019年12月20日(金)に、北房上水田にある荒木薬師堂(26番所)で行われた調印式では、井尻昭夫学長から、北房が貴重な学びの場となっていることへの謝意が述べられました。また、竹中秀美協議会会長から、お大師巡りでは各お堂に学生が訪れることを地域の方々を楽しみにしていることが紹介されました。加戸義和観光協会会長は、魅力ある地域を作り、宿泊客を増やしていきたいと述べられました。

(産学官連携センター)

Topic 10

おかやまテクノロジー展(OTEX)2020への出展

2020.1.23-24

岡山県、公益財団法人岡山県産業振興財団が主催する「おかやまテクノロジー展2020」へ、岡山・産学官連携推進会議加盟大学として、ブース出展を行いました。製造業を中心とした展示・商談会ですが、県内で産学官連携に取り組む自治体・企業の関係者が多く訪れるほか、高校生も多数来場するイベントとなっており、本学の産学官連携や地域貢献活動を紹介する貴重な場となりました。

本学は、研究ブランディング事業及び真庭市北房のお大師巡りの調査結果に関するパネルを展示するとともに、大学案内、入試ガイド、商大レビュー、研究ブランディング事業及び、フィールドスタディに関するパンフレットを配



布しました。北房お大師巡りのパネルをご覧になった方から、「自分の地元でも同様の調査を行いたい」と興味を持たれる方がいました。製造業の企業から、本学の卒業生が役職者として活躍していると報告してくださる方の来訪もしばしばありました。また、本学の学問領域とは直結しないと思われる製造業からも、就職先として学生に選んでほしい、とのことお話しも数多くありました。

(産学官連携センター)

Topic 11

第15回岡山市京山地区ESDフェスティバル

2020.1.25-26

本学は、2020年1月25日から2日間の日程で開催された「京山地区ESDフェスティバル」に、地域特産品の販売とESDスタンブラリーの運営で参加協力しました。

第15回目となるフェスティバルのテーマは「15(いこ)うか京山ESD ふれあい学び受け継ごう」。ESDはEducational for Sustainable Developmentの略です。持続可能な開発のための教育という意味で、フェスティバルはESDの取り組みについて市民レベルでの理解を深めることを目的に開催されています。伊島認定こども園の園児による歌をかわきりに、高校生の活動発表、小中学生の発表などが行われました。京山公民館内には建築廃材によるこけ玉づくりや、リサイクル材料や木材を使った手作り体験、不要になった食器をリユースするコーナー、フードドライブなどのブースが設けられ、多くの市民で賑わいました。

本学の学生は、屋外に設営されたマルシェにおいて、フィールドスタディ活動を通じて仕入れた美作市海田の天日干し番茶、真庭市北房の「はたの栗ピオーネシロップ」、笠岡市真鍋島の島にんにくのしょうゆ漬などを販売しました。また、スタンブラリーでは公民館内を回るもののほか、京山地区の史跡や名所をめぐる「京山えとこスタンブラリー」も配布し、受付には各ポイントを探索したことを報告してくださる家族連れが訪れました。

(産学官連携センター)



Topic 12

吉備学園コンサート

2020.2.9

2月9日岡山市立市民文化ホールにおいて「吉備学園コンサート2020」が開催されました。

当日は、天気も良く会場には200名を超えるお客様にご来場いただきました。

このコンサートは、大学と附属高校の吹奏楽部が協力して地域の皆様に音楽を楽しんでいただくことと企画し今年で3回目になります。

今回の演奏会は2部構成で、1部では高校生によるアンサンブル、そして2月1日に鳥取市で行われた全日本アンサンブルコンテスト中国大会に岡山県代表として出場し銀賞を受賞した大学生のアンサンブルチームが演奏を披露し聴衆を魅了しました。

2部では高校、大学の卒業生も加えた総勢40名による迫力ある演奏で、軽快なマーチや昭和から令和までの歌謡曲やポップスを数曲演奏し楽しんでいただき盛況のうちに会を終えることができました。

また、大学生はこのコンサートで演奏だけでなく卒業生と協力して前日の準備、当日の舞台進行を行うなど裏方の苦勞も同時に経験し、より大きな達成感を得る事が出来ました。

来年も2月に開催予定ですのご来場くださいますようお願いいたします。

(吹奏楽部 顧問 石原 憲)



令和元年秋の叙勲

2019.11.3

2019年11月3日に発令された令和元年秋の叙勲において、本学の大崎純一副学長が瑞宝中授章、三浦一男事務局長が瑞宝小授章をそれぞれ受章されることになりました。先の春の叙勲においては、井尻昭夫学長が旭日中授章を受章されたばかりで、続く栄誉に、学内は喜びに包まれています。

大崎副学長は経営工学が専門で、長年にわたり製造業の現場で生産性の向上に取り組むとともに、多くの後進を育ててきました。2019年7月には岡山県文化賞（学術）を受賞されています。

三浦事務局長は、岡山県庁において、県の発展に尽くすとともに、岡山国体（2005年）の開催などでも重要な役割を果たされてきました。

授章を受け、12月13日（金）には皇居宮殿において、天皇陛下への拝謁があり、お言葉を賜りました。（総務企画課）

電子資料活用講習会について

2019年5月～6月、10月～11月の期間において、データベース・電子ジャーナル・電子ブック（以下、「デジタルコンテンツ」）への理解と利用促進を図るための「電子資料活用講習会」を開催いたしました。

教員および学生に、図書館のデジタルコンテンツの存在を知ってもらうと同時に、それらを活用する方法を学んでもらい、従来の図書館資料と合わせて活用できる情報リテラシー能力の向上を目的とし、2018年度から始めた企画です。

専門講師をお招きし、図書館2階PCコーナーにて行っています。実際にデジタルコンテンツに触れながら学んでいく実践的なスタイルで、とても分かりやすいと好評を得ています。

本年度は、7つのデジタルコンテンツの講習会を実施し、教職員15名・学生165名の計180名の参加がありました。

来年度（2020年度）には、論文作成・就職活動に役立つデジタルコンテンツも新たに導入する予定です。

来年度も、随時、図書館HPおよび掲示板にてお知らせしますので、奮ってご参加ください。（図書課）



エッセー
数珠つなぎ

「限界集落の竹炭をいかに売るか」

経営学部 商学科 助教 西 春奈

「おくやまに もみぢふみわけ なくしかの こゑきくときぞ あきはかなしき(猿丸大夫)」

この歌の鹿の声が、家の裏山で聞こえるところがあります。それは、和歌山のある限界集落です。数年前、この地域の放置された竹藪を整備し、炭に加工して道の駅で販売することになりました。商品は170g 100円と1.2kg 500円の2アイテムのみ。簡易包装で、商品説明はありません。お店の奥の棚で目立たず、発売当初はなかなか売れませんでした。さて、あなたならこの竹炭の売上を伸ばすためにどのような工夫をしますか？

私はまず、商品を知ってもらうための売場づくりに取り組みました。お客さんの店内の動きや目線を考慮した商品陳列とPOPの作成です。次に、竹炭の使用シーンを提案しました。炭の用途といえばバーベキューが代表的ですが、その他プランターや畑、お風呂にも使えることをお客さんに伝えます。最後に、商品ラインナップを増やしました。道の駅の利用客を分類し、町外から訪れてお土産を買う層を対象に、ギフト商品（オーガニックの巾着袋入り15g 200円）を用意しました。

こうして、(改善の余地はありますが)限界集落の竹炭は年間を通して売れる商品となりました。とくにギフト用はたった15gで200円。一見すると高いのですが、綺麗なラッピングの効果もあり、まとめ買いをするお客さんもいます。余談ですが、最近「竹炭をフランスへ輸出したい」という問い合わせがあったそうです。需要はどこにあるかわかりませんね。

お客さんの今ある欲しいに答えるだけでなく、お客さんの欲しいを生み出すのもマーケティングです。マーケティング論の知識をインプットするだけでなく、実践する楽しさを学生に伝えられるよう、日々模索しています。ちなみに、私は高校までこの限界集落で過ごしました。

作家の視点

江戸川乱歩賞作家

石井敏弘

本学非常勤講師(第十七期商学部卒)

新型コロナウイルスのことばかり取り沙汰されていますが、アメリカではインフルエンザが猛威を振るい、この記事を書いている2月初旬現在で、千九百万人が罹患し、死者はなんと一万人を越えているといわれます（昨年からのこのシーズンで）。

インフルエンザのほうが新型コロナウイルスよりも重症化しやすいということは前から言われており、うつかりすると目の前の八工を追い払おうとして、足を踏み外して階段から落ちてしまった、というようなこともありそうです。

気になるのは、欧米などを中心に、世界各地でアジア人差別が拡大していることです。しかし、アメリカでインフルエンザ大流行となっても、「アメリカ人差別」は発生しない。目新しいもののほうが注目されやすいということは言えますが、数字の上でも症状の重さについても、インフルエンザのほうが重大な脅威なのに、まことに人は興味深いものです。

こんな時期に、マスクの買い付けに來た中国企業に値を上げられるところもあるとか。

見ていると、こういう出来事が起きたときにこそ、「品性」が問われるなということを感じます。自分も気をつけておこうと思う次第です。本学も中国からの留学生は大勢いらっしゃるわけですが、もし彼らに対してそんな差別的な態度を取ったら、それこそ自分を貶めるようなものです。

事が生じたとき、国も企業も個人も、その本質を露呈しやすい。そして行いは天秤にかけられていて、やがて評価されるときが訪れる。きわめて、当たり前のことですね。

2019年度語学研修について

マルタ共和国語学研修感想文

派遣期間：2019年8月17日～2019年9月8日

派遣先：マルタ大学(マルタ共和国)

経営学部経営学科2年 中山 薫

私がマルタ語学留学に行こうと思った理由は、海外の人と英語で会話してみたかったということとヨーロッパへ行ってみたいという願望があったからです。実際にマルタへ行き初日の授業を受けると、先生の英語を聞き取って授業についていくのがやっとでした。寮のルームメイトとも必要最低限の会話しかできず、3週間上手くやっていくことができるかどうか不安を覚えました。しかし、日を重ねるうちに土地にも言葉にも習慣にも慣れ、色々な国の友達ができました。また、色々な人と話すうちに失敗を恐れず自分から話していけば、英語が上達するということに気がきました。

この語学留学を通して沢山の事を学び、自信ができました。様々な国の人と会話することができて楽しかったし、英語を通じて沢山の友達を作れたことがなにより嬉しかったです。語学留学を終えて行く前と比較すると、何事にも積極的になれたと思います。また、日本から遠く離れたマルタに一人で行ったという行動



力が大きな自信に繋がりました。素敵な出会いがあって、思い出ができて、私自身が変わることができたと確信しました。語学留学に行くと語学力だけではなくもっと大切なものを得ました。この経験をさせてくれた家族と、サポートして下さった先生方に感謝しています。

忠清大学校留学レポート

派遣期間：2019年8月22日～2019年12月27日

派遣先：忠清大学校(韓国)

経営学部経営学科3年 関口 樺純

韓国の清州市にある忠清大学校に約4か月間留学しました。私が留学生活で学んだことはたくさんあります。まず、当たり前のことですが、現地で暮らすからといって現地の言葉が話せるようになるわけではないということです。周りの音を聞くだけで話せるようにはなりません。



何事も努力が必要であるということに改めて気づきました。次に、自分の苦手とすること、足りないところに気づくということの大切さです。私は今回、韓国語に限らず、自分の性格についても至らない点を知り、またそれを克服するための努力をしました。その結果、帰国後も付き合える友達を作ることができました。私は運がいいことに他の3か国の留学生とも友達になることができ、そのなかで本当に様々な「人」がいるのだということに気づきました。それぞれの国の文化の違いがあるのはもちろんのこと、その中でも個人で違いがあるということを知りました。

留学は、自分で考えていたよりも大変で、楽しい反面、言葉の壁や文化の違いのせいでストレスに感じたことも多くありました。それでも、留学経験のある友達が理解してくれてずっと一緒にいてくれたことで放り出さずに諦めずに生活することができました。ここで出会った友達や先生方は私にとって、とても大切で、これらの経験は私の人生においても大きな財産となったと思います。

2019年度孔子学院便り

岡山商科大学孔子学院は、2007年に創立して以来、中国語教育及び中国文化の正しい理解とその普及に努力を積み重ねてまいりました。2019年度に下記の通り、事業を展開しました。

1.中国語教育

今年度の中国語教育は入門、初級、中級、上級と上級会話、個人レッスン、子ども向けコースなどに分けており、それぞれ昼と夜のコースを設けております。倉敷の教室と遠隔教育コースを入れて、年間40クラスあります。それぞれ年間合計36週間の授業があります(遠隔教育は年に10回、子ども向けコースは年に30回)。

2.文化イベント

孔子学院は創立当初から、市民向けの文化イベントを続け、少しずつ地域の市民に中国文化を紹介してきました。この1年間、市民向けの多彩な文化イベント(中国語スピーチコンテスト、文化講座を含め)26回、およそ1396人に参加していただきました。

地域の一般市民向けの文化イベントも行いました。餃子作り、粽作り、中国茶を楽しむ会、切り紙、太極拳体験、中国結び作りなどは既に参加者にとって、中国らしさをより一層感じられるイベントとなっています。

3.中国語ラジオ講座と遠隔講座

特色のあるプロジェクトとして、RSKラジオでの中国語講座を開講しています。既に11年間続いており、ワンフレーズ、ワンワードの中国語講座、中国の経済講座、食文化講座などが中国語ファンに好まれています。RadioMOMOでの中国文化ラジオ講座は4年間続き、ネットでの放送もあり、より多くの視聴者に中国文化に触れ、現代中国を知る機会を提供できました。他に、テレビ会議システムを使用して、県立津山商業高校へ遠隔中国語講座を提供しています。

4.孔子学院の日

毎年恒例化された「孔子学院の日」、今年も内容豊富なイベントを開催しました。岡山の中国語及び中国文化に関心を持っている市民がイベントに参加しました。

各レベルの中国語授業のミニ講座、中国文化講座および中国茶文化体験、太極拳、切り紙、中国結び、中国事情ビデオなど多彩な体験コーナーを設けて、来場者に素晴らしい中国文化の体験をしていただきました。

5.地域への貢献

中国語を広めると同時に、地域住民の期待に応えるべく、多角的に中国文化を伝えるイベントを開いてきました。商大祭、附属高校の文化祭に参加したりして、当地の市民に中国文化体験イベントを開催して、地域の市民と学生に近距離に中国文化に触れ、中国を知るチャンスを提供し、好評をいただきました。

倉敷市の中国語教室は既に3年間続いており、孔子学院から2名のボランティア講師を派遣し、授業を担当します。使用している教材及び授業は孔子学院と同じもので、受講生の数は安定しています。

6.中国との合同によるイベントの開催

中国側協定大学である大連外国語大学及び協力機関との提携で、大連外国語大学伝統芸術鑑賞会、商大生の中国でのサマーキャンプなどのイベントを行いました。今年の伝統芸術鑑賞会は県立和気閑谷高等学校と孔子学院で2回開催し、およそ500人に参加していただきました。今年、9名ほどの商大生がサマーキャンプに参加し、事前授業と事後授業を受けることで、単位を取得できました。そして、孔子学院の全ての学習科目が大学の単位として認める事業も継続中です。

7.大学及び他の孔子学院との協力

岡山商科大学孔子学院は、他の孔子学院と協力し、交流分野を広げました。今年は新しいプロジェクトとして、北陸大学孔子学院と協力し、中国の青年卓球選手と岡山商科大学卓球部の学生と友好試合を行い、若者の相互理解を深めました。そして、神戸東洋医療学院孔子課堂と協力を得て、課堂長による中医学講座を行いました。

県立岡山東商業高等学校は「中国理解」の授業を設けており、孔子学院は担当教諭と相談して、高校生に授業を行いました。留学生交流会なども行い、高校生がもっと深く中国を理解できるよう協力しました。

また、今年初めて高校生を推薦して、「西日本中高生漢語橋予選大会」に参加しました。孔子学院のボランティア講師は西日本の優秀者を連れて、中国で行われる「世界中学生漢語橋大会」に参加しました。

(孔子学院 副学院長 李 燕)

2019年度部活動戦績

サークル名	学生氏名	学年	大会名	種目	結果	出身校
ウェイトトレーニング部	田辺 陽太	3年	2019 世界クラシックパワーリフティング選手権	男子ジュニア	3位	第一学院高校(広島)
器械体操同好会	高原 圭吾	3年	第52回中国四国学生体操競技大会	男子個人	男子総合5位 種目別 跳馬1位	米子松蔭高校(鳥取)
弓道部	中村 義光	4年	第68回住吉大社全国弓道大会	男子個人	5位	興陽高校(岡山県)
	平本 一貴	1年		男子個人	8位	飯山高校(香川県)
剣道部	佐藤 太一	3年	第67回全日本学生剣道選手権大会	男子個人	出場	倉敷商業高校(岡山)
	男子団体		第67回全日本学生剣道優勝大会	団体	出場	
硬式野球部					6位	
	本干尾聖人	3年	2019年度中国六大学野球春季リーグ戦	二塁手部門	ベストナイン賞	関西高校(岡山)
	古田佑一郎	4年		外野手部門	ベストナイン賞	柳ヶ浦高校(福岡)
					6位	
	平 雅稀	4年	2019年度中国六大学野球秋季リーグ戦	捕手部門	ベストナイン賞	日本航空高校(山梨)
	山田 光彩	2年		外野手部門	ベストナイン賞	箕面学園高校(大阪)
ゴルフ部	男子団体戦		第56回全国大学ゴルフ対抗戦		出場	
	中西 麻奈	4年	2019山陽新聞レディースカップ	個人	出場	興陽高校(岡山)
	中西 麻奈	4年	文部科学大臣杯争奪 第2回日本女子学生ゴルフ王座決定戦	個人	3位	興陽高校(岡山)
サッカー部			2019年度岡山県学生サッカーリーグ		2部リーグ優勝 1部昇格	
射撃部	石川 海渡	3年	U30全日本ピストル射撃選手権大会	男子団体	6位	高瀬高校(香川) 高知高校(高知)
	宮田 和政	2年				
	和田 光輔	3年	第74回国民体育大会いきいき茨城ゆめ国体	ライフル射撃競技	個人 18位	倉敷翠松高校(岡山)
柔道部	男女団体		全日本学生柔道優勝大会	団体	出場	
	宮川 卓也	3年	第74回国民体育大会いきいき茨城ゆめ国体	団体	出場	神戸国際大学 附属高校(兵庫)
	男子団体		全日本学生柔道体重別団体優勝大会	団体	2回戦進出	
吹奏楽部			第51回岡山県アンサンブルコンテスト	大学の部	金賞	
			第43回全日本アンサンブルコンテスト中国大会	大学の部	銀賞	
ソフトテニス部	鳥越 隼斗	3年	中四国学生ソフトテニス大会	ダブルス ※岡大生とペアを 組んで出場	2回戦進出	津山東高校(岡山)
卓球部	男女団体		2019年度中国学生卓球選手権春季大会	団体	優勝	
	孔 英儒	3年		男子シングルス	優勝	出雲北陵高校(島根)
	戎野 那菜	1年		女子シングルス	優勝	徳島商業高校(徳島)
	北野 辰樹	4年		男子ダブルス	優勝	高松中央高校(香川) 松山商業高校(愛媛)
	三上 裕太	1年				
	戎野 那菜	1年		女子ダブルス	優勝	徳島商業高校(徳島)
	福永 加奈	4年				
	戎野 那奈	1年	第74回国民体育大会いきいき茨城ゆめ国体	団体	出場	徳島商業高校(徳島)
男子バスケットボール部			第71回全日本大学バスケットボール選手権大会 中国地区予選会		II部リーグ優勝 I部昇格	
軟式野球部					6位	
	小林 快	4年	令和1年度西日本地区学生軟式野球 秋季I部リーグ戦	捕手部門	ベストナイン賞	玉島商業高校(岡山)
	奥田 寛大	1年		一塁手部門	ベストナイン賞	尾道商業高校(広島)
	川上倫太郎	3年		遊撃手部門	ベストナイン賞	倉敷鷲羽高校(岡山)
日本拳法部	武田 希美	1年	日本拳法愛媛県総合選手権大会	一般女子の部	3位	倉敷商業高校(岡山)
	武田 希美	1年	日本拳法徳島県総合選手権大会	一般女子の部	2位	倉敷商業高校(岡山)
ボウリング部			全日本大学・実業団ボウリング王座決定戦	女子トリオ	準優勝	
	近藤 雄太	3年	第74回国民体育大会いきいき茨城ゆめ国体	ボウリング競技	4人チーム 準優勝	春日井南高校(愛知)
	川崎 未来	2年	第52回全日本新人ボウリング選手権大会	男子個人	優勝	和歌山北高校 (和歌山)
	男子団体		第57回全日本大学ボウリング選手権大会	団体戦	優勝	
陸上競技部			第40回中国四国私立大学対校 陸上競技選手権大会	男子総合	準優勝	
陸上競技部	川原 文太	2年	第42回中国四国学生陸上競技選手権大会	走幅跳	優勝	川之江高校(愛媛)

(学生課)

パラ・パワーリフティング 台湾女子代表、日本代表 強化合宿のレポート

2019.12.18～22

去る令和元年12月18日水曜～22日日曜まで、岡山商科大学ウェイトトレーニング部部室でパラ・パワーリフティング台湾女子代表、日本代表の強化合宿が行われました。本合宿は2020年東京パラリンピックの事前合宿に繋がる合宿であり、19日には、井尻学長、岡山県知事、岡山市市長、経済界を代表して岡山スポーツプロモーション機構も参加しての、歓迎式典、台湾女子代表との2020東京パラリンピック事前合宿実施の協定締結式が行われました。とても良い雰囲気の中、選手、役員共に岡山での合宿に意欲的になれる式典となりました。式典後に行われた公開練習はメディアからの注目も高く、民放5社、プレス2社から取材を受け、その日のテレビニュースや翌日の新聞でも数多く取り上げていただきました。



台湾代表のリン・ヤー・シェン選手は、シドニーパラリンピックをはじめ、すでに五大大会連続でパラリンピックに出場されています。今回リン選手の練習を指導させていただき、まだまだ伸びる可能性を感じました。私だけでなく、日本代表の選手からも練習中にお互いに多くのアドバイスをし合うことができたとの声が聞かれ、国は違えど「ONE TEAM」のような雰囲気の中で最後まで練習をすることができました。また、合宿期間中には、岡山大学附属小学校や旭川荘とも交流事業を行いました。

来年度の事前キャンプに向けて、選手の皆さんは練習にも熱が入っています。4月に行われるドバイでのワールドカップで東京パラリンピックの選考大会は終わり、東京パラリンピックに出場できるメンバーが決まります。2020年度に岡山でまた同じメンバーで合宿ができることを心から願います。

(岡山パラ・パワーリフティングクラブ 代表、パラ・パワーリフティング日本代表コーチ 岡本孝義(法学研究科2006年卒))

第57回全日本大学ボウリング選手権大会 優勝！

2019年11月16日(土)から18日(月)まで京都府にあるキョーイチボウル宇治にて開催された文部科学大臣杯第57回全日本大学ボウリング選手権大会において、本学ボウリング部の男子が2年ぶり2度目の優勝を果たしました。

この大会は男子5人チーム、女子2人チームで競われ、大学生の大会で最も歴史が古く、名誉ある大会であり、優勝を目指し日々、練習に励んでいます。

男子は昨年、連覇を阻まれ、悔しい思いをした分、今大会にける思いは強く、予選1回戦から他大学との点数差を大きく広げると、それ以降も点数差を大きく広げ続け、2位と941点差をつける大差で見事優勝しました。

女子は昨年3連覇を果たしたメンバーが卒業し、今年度から新チームになり、周りから4連覇を期待され、今大会までしっかりと準備をしてきましたが、4位という結果でした。

来年度は男女アベック優勝するという意気込みで、日々、練習に励んでいます。

(学生課)

男子バスケットボール部 1部リーグ昇格！

昨年度、岡山商科大学男子バスケットボール部は中国地区1部・2部入替戦で負けました。新しく部を立ち上げなおして1年目、部員は1年生5人と3年生1人。良くやったと言ってくださった方々もありますが、6人は試合後泣いていました。何もできなかった自分たちに悔しくて。それから1年後、新たに部員も増え15人、目標であった1部昇格を果たしました。部を立ち上げなおして2年目、彼らは次の目標に向けて努力しています。

これからも引き続き、ご声援をお願いいたします！

(男子バスケットボール部 監督 宇田康利)

岡山県学生サッカーリーグ1部昇格！

岡山商科大学サッカー部は、1990年度岡山県学生サッカーリーグ1部で優勝しましたが、その後部員数も減少し優勝から遠ざかっていました。2018年度サッカー部OBの方々からのご協力いただき再スタートを切りましたが、公式戦0勝11敗と残念ながら勝利を挙げることはできませんでした。2年目の2019年度は、県学生リーグ2部において7勝1分2敗の成績で優勝し、県学生リーグ1部昇格を果たすことができました。

まだまだ課題が山積していますが、ひとつひとつクリアし、人間的に信頼され、夢と希望が持てるサッカー部に成長したいと思ひます。

(サッカー部 監督 青木 隆)

「経済研究同好会」の活動について

こんにちは、経済学部4年の長尾です。経済研究同好会(以下、経研会と表記)は2018年の4月に私が創設した学術サークルです。現在は部員29人が所属しており、大学院進学・公務員・税理士などそれぞれの目標に向けて日々勉強に励んでいます。

商大生にとっては「経済=経済学部」というイメージが強いと思われますが、経研会には経営学部の学生も所属しており、会計やマーケティングの勉強をしている学生もいます。

主な成果として、今年度は2名が有名大学院(東京工業大学ほか)に合格するなどコツコツと実績を積み上げています。他にも、経済学検定試験では上位成績を残したり、経済学部の学術大会である3・4年プレゼン大会にオブザーバーとして研究成果を発表したりしております。また、経研会の活動は学内だけでなくとどまらず、岡山大学との勉強会も行っています。過去にはミクロ経済学やマクロ経済学、現在はゲーム理論の勉強会を行っております。経研会の活動は、大学の講義だけでは物足りない方にも満足できる活動内容だと自負しています。

サークル活動への参加は、学内外・専攻・老若男女問わず歓迎しております。活動に興味のある方は気軽にご連絡ください。

活動場所：3号館4階344教室

活動時間：水・金曜日 16:30～

連絡先：osu_esc@yahoo.co.jp

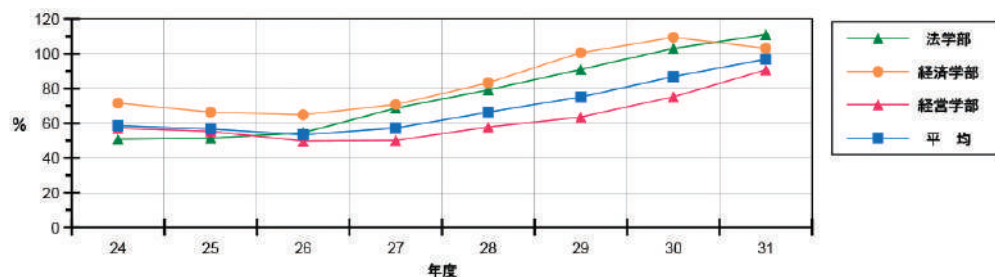
備考：活動時間以外でも部室は部員の自主学習のために開放しています。見学等は随時対応しております。お気軽にお越しください。

(経済学部経済学科4年・長尾悠士)

Information
情報アラカルト～順調に回復～
収容定員充足率

大学運営の健全性を見るための大切な指標が収容定員充足率です。4年間の総収容定員に占める学生総数の割合で、完全に定員を満たせば100%で、最適な状態です。

本学の収容定員充足率は、平成26年度には60%を割った時期もありましたが、その後順調に回復し、令和元年度は法学部が111.0%、経済学部が103.2%、経営学部が90.7%までになりました。今後も、100%台を維持していくことが求められます。

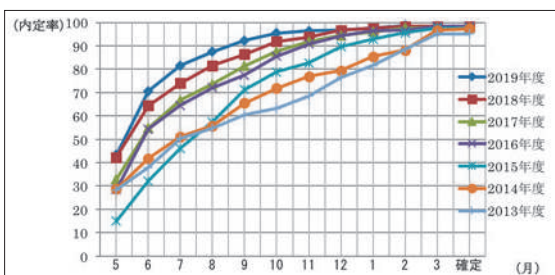


(事務局長)

キャリアセンター便り

2019年度就活、9月に内定率90%を突破

2019年度卒(2020年3月卒)学生の就職内定率は2019年5月末に43.2%、同年9月末には92.3%を達成するなどハイペースで推移(昨年同時期86.3%)、過去最速で90%超えた年度でした。本学は学生優位の売り手市場であっても後押しを必要とする学生が多いのも特徴。キャリアセンターでは学生個々へのきめ細やかなサポートでその彼らの特性を早期に見極め「やる気を引き出す」ことに軸足を置いた就職支援を行っています。地味ではありますがこれからも本学独自の就職支援体制を継続し学生・保護者の方の期待に応えていきたいと思っています。



	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度
5月	43.2	42.2	32.8	28.4	14.9	28.7	28.3
6月	70.6	64.4	54.8	54.4	32.1	41.7	37.8
7月	81.6	74.0	66.7	64.5	46.1	51.0	50.4
8月	87.4	81.5	73.5	72.0	57.3	55.7	54.8
9月	92.3	86.3	81.4	77.4	71.3	65.5	60.4
10月	95.4	91.8	87.6	85.5	78.8	71.8	63.1
11月	96.3	93.8	91.8	90.8	82.6	76.9	68.5
12月	96.7	96.7	94.5	94.3	89.6	79.4	76.4
1月	97.5	97.5	96.0	96.3	92.8	85.4	81.6
2月	98.7	98.3	97.6	96.7	95.5	88.1	88.5
3月	-	98.3	97.7	98.3	97.6	96.7	95.2
確定	-	98.3	97.7	98.3	97.6	97.3	95.2

*原稿締切日の関係で2019年度は2月までの内定率を記載

(キャリアセンター)

高等教育の就学支援新制度について

文部科学省では、しっかりとした進路への意識や進学意欲があれば、家庭の経済状況に関わらず、大学に進学できるチャンスを確保できるよう、2020年4月から高等教育の修学支援新制度を実施いたします。

これに伴い、岡山商科大学は、「大学等における修学の支援に関する法律(令和元年法律第8号)」による修学支援新制度の対象機関となる大学として認定されました。

同法律に基づき、特に優れた学生であって経済的理由により極めて修学に困難があると認められるときは、授業料及び入学金の減免を行うと同時に、返還不要の給付奨学金を授給することができます。

制度の詳細は文部科学省HPをご確認ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm

(学生課)

慶應MCC 夕学講座
2020年度前期 開催予定

- 開催時間 18:30~20:30(開場18:00)
- 会場 岡山商科大学 地域交流談話室(学生会館2階)
- 受講料 パスポート券(15回)10,000円
受講券(1回)1,200円

4月7日(火) <逆張りの経営論>

内田 和成 (うちだ かずなり)
早稲田大学ビジネススクール 教授
「右脳思考 一観・感・動のススメ」

4月9日(木) <歴史と空間を旅する>

池上 彰 (いけがみ あきら)
ジャーナリスト
「世界の読み方2020」

4月14日(火) <人が変われば社会が変わる>

北野 唯我 (きたの ゆいが)
著述家、ワンキャリア取締役
「現代における、強い会社の条件」

4月16日(木) <逆張りの経営論>

松尾 睦 (まつお まこと)
北海道大学大学院経済学研究科 教授
「部下の強みを引き出す経験学習リーダーシップ」

4月28日(火) <この人に聞く>

秋元 雄史 (あきもと ゆうじ)
東京藝術大学大学院美術学 館長・教授、練馬区立美術館 館長
「アートとビジネスの交差点から世界を考える」

5月14日(木) <人が変われば社会が変わる>

高橋 孝雄 (たかはし たかお)
慶應義塾大学医学部小児科学教室 教授
「子どもを育てる力、環境の力」

5月21日(木) <この人に聞く>

田村 淳 (たむら あつし)
ロンドンブーツ1号2号
「ボクが慶應大学院で学ぶ理由」
※トークショー形式の講演60分、質疑応答30分の構成です。

5月22日(金) <インタンジブル時代を考える>

井上 達彦 (いのうえ たつひこ)
早稲田大学商学学術院 教授
「ゼロからつくるビジネスモデル:3つの基本アプローチ」

6月2日(火) <逆張りの経営論>

大室 正志 (おおむろ まさし)
産業界
「企業と個人の健全な関係」

6月5日(金) <逆張りの経営論>

安永 雄玄 (やすなが ゆうげん)
浄土真宗本願寺派築地本願寺 代表役員宗務長
「築地本願寺の経営改革 ~ビジネスマン出身僧侶のお寺改革~」

6月9日(火) <人が変われば社会が変わる>

仲山 進也 (なかやま しんや)
仲山考材株式会社 代表取締役、楽天株式会社 楽天大学学長
「組織にいなから、自由に働く。」

6月18日(木) <逆張りの経営論>

高橋 俊介 (たかはし しゅんすけ)
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任教授
「経営人材に必要なリベラルアーツ」

7月2日(木) <インタンジブル時代を考える>

清水 洋 (しみず ひろし)
早稲田大学商学学術院 教授
「イノベーションは社会を創るのか、破壊するのか」

7月14日(火) <機会とリスクの論点>

飯山 陽 (いひやま あかり)
イスラム思想研究者
「イスラム2.0~イスラム理解のタブーを越えて~」

7月16日(木) <人が変われば社会が変わる>

仲野 徹 (なかの とおる)
大阪大学医学部 教授
「(あまり)病気をしない暮らし」

※新型コロナウイルス感染症の影響により、日程が変更となる可能性がございます。

■お問合せ先

- 岡山商科大学社会総合研究所
〒700-8601 岡山市北区津島京町2-10-1
TEL 086-256-6656(直通)
FAX 086-252-0642(代表)
- 岡山商工会議所 夕学講座担当
〒700-8556 岡山市北区厚生町3-1-15
TEL 086-232-2262

(社会総合研究所)